

学会ニュースNo.122 トピックス

- ・2018年度(第73回)総会・研究発表大会のご案内
- ・2018年度立正地理学会評議員会のお知らせ
- ・臨地研究会の開催を希望される方へのお知らせ
- ・第47回講演会報告
- ・第48回講演会報告
- ・第115回臨地研究会(神奈川県藤沢市)報告
- ・第116回臨地研究会(東京)報告
- ・立正地理学会研究委員会の募集(新規)
- ・地理学教室だより
- ・今年度卒業予定の学生会員の皆様へ
- ・会費納入のお願い

会 告

○2018 年度(第 73 回)総会・研究発表大会のご案内

2018 年度(第 73 回)総会・研究発表大会を下記の要領にて開催いたします。

記

1. 日時:2018 年 6 月 2 日(土)9:00(予定)より
2. 会場:立正大学熊谷キャンパス アカデミックキューブ(調整中)
(当日、学内に案内を掲示いたします)
3. 総会委任状について
次号の学会ニュースに総会委任状を同封します。
4. 昼食
学生食堂(サハー・パルロットなど)が営業しております。
5. 懇親会
 - 1)会場:立正大学熊谷キャンパス学生食堂(予定)
 - 2)会費:一般 4,000 円・学生 2,000 円(予定)
 - 3)時間:17:00~19:00(予定)
6. 研究発表
 - 1)申し込み
発表希望者は、2018 年 4 月 16 日(月)までに集会委員会宛にメールでお申し込みください。お申し込みの際は、以下の枠内の内容をメールに記載して geosoc@ris.ac.jp まで送信してください。非会員の方が発表者になることはできません。

1. 発表者氏名
2. 所属(共同発表の場合は、発表者に○印をつけて下さい)
3. 発表題目
4. 発表形式(いずれかを選んでください):「口頭発表」もしくは「ポスター発表」
5. 連絡先(氏名、住所、電話番号、E-mail アドレス)

2) 形式

口頭発表とポスター発表があります。いずれかを選択してください。

●口頭発表

発表時間 15 分、質疑応答 5 分の計 20 分です。

会場には、パソコンと液晶プロジェクターが用意してあります。プレゼンテーションソフトは Windows 版 PowerPoint2013 になりますので、ファイルは Windows で読み込めるフォーマットの USB メモリーに保存し会場へご持参ください。なお、スライドプロジェクターや OHP は機器が用意できないため使用できません。

●ポスター発表

コアタイムとは別に 1 分程度の口頭による内容紹介を行っていただきます。ポスターのサイズは A0 縦 (短辺 841 mm, 長辺 1189 mm) サイズまでです。

3) 要旨

発表者は要旨を必ず編集委員会にご提出ください。要旨は『地域研究』に掲載いたします。執筆要領は大会当日に編集委員会の受付で配付いたします。大会後、期日までにご提出ください。なお、発表要旨集は作成しません。

4) 配付資料

配付資料が必要な場合は、発表者が各自に必要な枚数を事前にご用意ください。配付資料のコピー・印刷等は受け付けておりません。学内の有料のコピー機をご利用ください。

7. 地理写真

1) 申し込み

発表希望者は、2018 年 4 月 16 日(月)までに集会委員会宛にメールでお申し込みください。お申し込みの際は、以下の内容をメールに記載して geosoc@ris.ac.jp まで送信してください。非会員の方が申し込むことはできません。なお、地理写真は研究発表ではありません。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 氏名2. 所属(共同の場合は、発表者に○印をつけて下さい)3. テーマ4. 連絡先(氏名、住所、電話番号、E-mail アドレス) |
|---|

2) 形式

地理写真のサイズは、A1 縦(短辺 594 mm,長辺 841 mm)サイズまでです。大会当日に所定の場所へ掲示し、大会終了後は各自でお持ち帰りください。写真の大きさ・枚数・貼り方は自由です。写真には内容・場所・撮影日時などのキャプションを付記願います。

8. 研究発表大会プログラム・会場案内について

次号学会ニュース(2018 年 5 月発送予定)、ならびに学会ホームページ(<http://geo.rissho-map.jp/>)に掲載いたします。

9. 展示について

地理関係出版社の出版案内や図書販売が行われる予定です。

10. やむを得ない理由によって開催が困難な場合の対応

地震や台風またはその他のやむを得ない理由によって大会の開催が困難な場合は、立正地理学会ホームページ (<http://geo.rissho-map.jp/>) または立正大学地理学科ホームページ (<http://rissho-map.jp/>) でお知らせいたします。

以上

○2018 年度立正地理学会評議員会のお知らせ

2018 年度立正地理学会評議員会を下記の要領にて開催いたします。

記

1. 日時: 2018 年 6 月 1 日 (金) 18:00 より
2. 場所: 立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ A610 会議室 (予定)
3. 議題: 1. 2017 年度事業報告の件
2. 2017 年度決算報告の件
3. 2018 年度事業計画案の件
4. 2018 年度予算案の件
5. その他 (他に議題のある評議員の方は、集会委員会までお知らせ下さい。)
詳細については、次号学会ニュースにて評議員の方に同封するご案内をご覧ください。

○臨地研究会の開催を希望される方へのお知らせ

2018 年度に臨地研究会の開催を希望される方は、以下の要領で実施案を作成し、2018 年 4 月 16 日 (月) までに集会委員会宛メール (geosoc@ris.ac.jp) にご提出ください。合同委員会等で協議し実施の可否を決定いたします。

なお、臨地研究会は日曜日または祝日に開催してください。貸し切りバス利用の場合は学会から 5 万円、徒歩の場合は 2 万 5 千円が最大で補助されます。お申込み多数の場合、またはお申込みの内容によってはご希望に添えない場合もありますので、お含みおきください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 趣旨2. 日時: 201○年○月○日 (○) ○:○~○:○3. 集合場所: ○○線「○○駅」改札口 ○:○集合4. テーマ: 「○○○」5. 案内者: ○氏名○、○氏名○、○氏名○6. 参加費: ○○円7. コース: ○○→○○→○○→○○解散
* 昼食は○○8. 募集定員: ○名9. 参加を希望する会員が連絡するためのメールアドレス ○氏名○: ○○@○○.jp |
|---|

以上

○第 47 回講演会報告

2017年12月2日(土)、立正大学品川キャンパスにて第47回講演会が実施された。今回の演者は文部科学省初等中等局教育課程課 教科調査官の濱野 清氏で、演題は「学習指導要領改訂の動向と地理学習」であった。講演内容は、地理教育に関わる学習指導要領改訂の動向や地理学習の今後の方向性についてであった。県立高校での指導経験も豊富な演者の講演は、具体的で丁寧な説明が多くみられ大変参考になる内容であった。

当日の講演は、立正地理学会秋季例会シンポジウムの基調講演であり、この話題提供をもとに各教員の実践が発表された。講演後には参加者からの質問が多くあり、非常に実りある講演会であった。今後の学習指導要領改訂を見据え、それぞれが地理教育に取り組んでいく必要性を改めて認識することができた。参加者にとって収穫の多い講演をしてくださった濱野先生にこの場を借りて御礼申し上げます。

(松尾忠直会員)

○第 48 回講演会報告

2017年12月5日(火)、立正地理学会の学生会員を主な対象として講演会が開催された。演者は、高崎経済大学地域政策学部地域政策学科教授の津川康雄氏、会場は立正大学熊谷キャンパスのアカデミックキューブ A201 教室であった。

「地域とランドマーク」と題した講演では、津川氏からランドマークは地域のイメージが形となって表れてくるものとの説明があった。そして、「タワー」、「花時計」、「大観音像」、「ランドサイン」を例に、それらに込められた意味(ミーニング)やアイデンティティの地域性について多くの画像を紹介しながら解説された。講演には、地理学を学ぶ多くの学生、大学院生が参加し、紹介された画像に注目し熱心にメモを取りながら聞き入る様子がみられた。後半では、鈴木厚志会員の司会進行により、地理学を学ぶうえで重要となる考え方や手法など、現役学生へのアドバイスを演者からお伺いすることができた。津川氏の、興味をもったテーマを大切に、継続して取り組む姿勢には、報告者もたいへん感銘を受けた。

今回の講演では、一貫して地理学研究に携わられている津川氏のご経験に裏打ちされた貴重なお話を拝聴する機会を得ることができた。ここに記してお礼申し上げます。

(郷原裕生会員)



第 48 回講演会報告の様子(貝沼恵美会員撮影)

○第 115 回臨地研究会(神奈川県藤沢市)報告

2017年9月18日(月)、青木訓穂会員、小田巻 滋会員、島津 弘会員、戸田真夏会員の案内により、第115回臨地研究会が神奈川県藤沢市において行われた。テーマは「相模原台地の近郊農業—進化する都市農業—」、参加者は17名であった。台風接近の影響を受け、予定されていた開始時間を遅らせ、コースを短縮して実施された。

当日は、小田急江ノ島線六会日大前駅を徒歩で出発し、亀井野地区にある地神社へと向かった。ここでは、神社とその周辺における台地と谷の地形について説明がなされた。地神社を出発して南に向かいながら、植木生産が行われている植木畑を観察した。その後、台地上の浅谷の中に水田が広がる様子を観察しながら北東へ進み、JA さがみの農産物直売所である「わいわい市藤沢店」へ向かった。ここでは、JA さがみ組織管理部の坂巻幸司氏より、施設の紹介や出荷・販売の行程、ブランド力に関する説明を受けた。坂巻氏のお話は、JA の関係者や農家の方々の農作物に対する強い想いを感じられるものであった。

昼食後、少量多品目の畑作地が広がる中を東へ進み、西俣野地区にある比高20~40m程の段丘崖を下り、段丘の下に形成されている崖下集落を観察した。また、段丘崖の途中には湧水もみられた。段丘の下には境川の氾濫原が広がっており、主に水田として利用されていた。

その後は崖下集落に沿って北東に進み、飯田牧場で休憩をとった。ここでは、農産物を消費地へ輸送するのではなく、消費者を生産地へ呼ぶことで輸送コストをゼロにするという都市農業の一つの姿をみる事ができた。休憩の後、飯田牧場を出発して西へ進み、花応院や亀井野の集落を經由しながら再び六会日大前駅へと戻り、巡検は終了した。

今回の臨地研究会では、少量多品目の生産形態や地域に密着することで輸送コストをゼロにする牧場経営など、進化し続ける都市農業の一つの姿を再確認することができた。また、生産者と消費者との結びつきについて考える上でも、非常に有意義な巡検であった。

(梅賀亮太会員)



第115回臨地研究会の様子(内山幸久会員撮影)

○第 116 回臨地研究会(東京)報告

2017年12月3日(日)、君川静夫会員、戸田真夏会員、亀井啓一郎会員の案内により、第116回臨地研究会が東京都江東区、中央区、千代田区および港区において実施された。テーマは「地図づくりの原点を歩く・探る」、参加者は19名であった。

当日は、江東区の門前仲町駅前に集合し、徒歩で富岡八幡宮へと向かった。境内大鳥居横に建立された伊能忠敬像付近において、富岡八幡宮の歴史や伊能忠敬の測量技術の特徴について、君川会員より説明がなされた。その後、骨董市で賑う境内を通りながら、日本列島が描かれたマンホールに格納された一等水準点や伊能忠敬旧居跡を經由し、中央区の霊岸島験潮場へと向かった。ここでは、明治期に行われた東京湾平均海面基準値の決定過程や験潮場の仕組みについて説明がなされた。

新富町駅から桜田門駅までは地下鉄で移動し、千代田区の憲政記念館構内に設置されている日本水準原点を見学した。日本水準原点は建屋内に格納されているが、管轄の国土地理院のご厚意により建屋内を見せていただくことができた。参加者は写真撮影やメモをとるなどし、建屋内の様子について見識を深めることができた。昼食休憩の時間を使って十分に観察でき、貴重な経験をさせていただいた。

休憩後、霞ヶ関駅から地下鉄にて神谷町駅へ移動し、厳重な警備が敷かれたロシア大使館前にある几号水準点やアフガニスタン大使館横にある日本経緯度原点を観察したのち、赤羽橋駅から地下鉄とゆりかもめを乗り継ぎ、江東区青海の海上保安庁海洋情報資料館へ向かった。館内では係員の方による展示資料の説明を受け、また海図の使用体験をさせていただいた。

今回の臨地研究会では、地図づくりにおいて基準となる事象について知見を広めることができ、貴重な時間を過ごせた。詳細な資料をご用意いただき、ご案内いただいた君川静夫会員、戸田真夏会員、亀井啓一郎会員の3名には記して厚くお礼申し上げたい。

(郷原裕生会員)



第116回臨地研究会の様子(内山幸久会員撮影)

○立正地理学会研究委員会の募集(新規)

2018年度の研究委員会を募集します。希望者はホームページ上または立正地理学会ニュース No.112, No.113(立正地理学会ホームページ, 立正地理学会ニュースバックナンバー参照)に掲載された「立正地理学会研究委員会に関する内規」を熟読の上、内規 5 の内容を明記した申請書(立正地理学会ホームページに様式を掲載しました)を、島津常任委員長宛(当面の間、常任委員長扱いとします)に郵送(住所等は最終ページに記載してあります)、またはメール(アドレス: geosoc@ris.ac.jp, 件名: 立正地理学会研究委員会応募)で提出して下さい。2018年4月13日(金)を締切日と致します。応募件数が多い場合は調整することがあります。

(常任委員長 島津 弘)

☆地理学教室だより☆

○2017年度卒業研究発表大会報告

第13回立正大学卒業研究大会が2018年2月8日、9日に行われました。今回の大会では、口頭発表7名、ポスター発表34名、AP学生研究プロジェクト4グループの方が発表を行いました。当日は、学生を中心に多くの方々が大会に参加し、活発に質疑応答などが行われている様子も見られました。

今回の学会ニュースでは、大会で発表された研究の一部を広報委員による取材レポートをもとに紹介したいと思います。

長谷川樹生 「東京都伊豆大島におけるキョンの出没環境と生息適地の推定」

伊豆大島の三原山は火山性で生物が生息するには難しい条件となっています。しかし、外来種でシカの一種であるキョンの痕跡が三原山で多く発見されたことをうけ、長谷川さんはキョンの出没環境と生息適地についての研究を行いました。

調査はキョンの生息位置について、三原山とその周辺の土地利用調査と、GISを活用した分析を行い、生息推定地域を見出されました。そこからさらに、キョンの痕跡調査と、現地での聞き取り調査と、徒歩または車を用いた調査を実施しました。キョンの行動圏と土地利用図を重ね合わせ、GIS分析を行い、周辺の環境データから生息適地の適、不適の推定を行われました。

以上の調査結果から、キョンは三原山とその周辺の59ヶ所で生息が確認され、森林、耕作地周辺に多く出現することが示されました。さらに長谷川さんはキョンを森林に生息するタイプと市街地付近に生息するタイプの2つに分けられることを示唆しました。

本研究を踏まえて、キョンの生息分布は現在も拡大しており、生息総数などのデータを取得する際にその精度を向上させ、キヨン対策に役立てたいと述べられていました。

(広報委員 小形旬平)

門井愛子 「花を活かしたまちづくりの展開と課題—埼玉県鴻巣市を事例に—」

埼玉県鴻巣市は複数種の花の出荷量が日本一となっています。その背景として農家による花卉栽培が拡大し、組合や行政などの様々な主体が花に関する PR 活動を行ったことで、「花のまちこうのす」というキャッチフレーズとともに花のまちイメージが形成され、出荷量の増加につながったと門井さんは述べられていました。

花を活かしたまちづくりの展開と課題について、門井さんは関連するステークホルダーを対象に調査を行いました。企業、環境経済部観光戦略課、第三次セクターへの調査の結果、企業は花卉産業の発展と存続を目的として、生産者が企画した花に関する活動の支援を行っていること、環境経済部観光戦略課は地域振興活動を豊富に実施していること、第三次セクターは環境経済部観光戦略課から主に委託という形で競り業務や植栽などを行っていることを示されました。

花に関するモニュメントは人が集まりやすい駅などに多く見られますが、花に関するイベント会場は鴻巣市全域に散在していると述べられています。旧川里地域は花に関する事業は少ないのですが、それは交通の利便性が関係しているのではないかと考察されていました。

以上の結果を踏まえ、花を活かしたまちづくの課題は 2 点あり、少子高齢化による花卉農家の後継者不足と、イベントが天気によって左右されやすいことへの対策が必要だと門井さんは指摘されていました。

(広報委員 小形旬平)

高杉陽名 「弘前市における湧水環境の類型化」

高杉さんは、湧水の利用や管理という社会的なつながりに注目し、青森県弘前市における湧水の形態や管理の違いを類型化する研究を行われました。主に現地での観察や利用者への聞き取り調査を実施し、近年、弘前市で湧水利用が減少していることを示唆しました。そのような下でも、現在も活発に利用されている湧水の特徴として、湧出量が豊富であることや、利用者にとって使いやすく工夫されていることなど、湧水自体の価値が高いものが活用されていることを明らかにしました。

高杉さんは今後の研究課題として、今回の調査では湧水の利用者側の視点に偏ってしまったが、上水道の変遷など地域の水利用の歴史についても考察したいと述べていました。

(広報委員 卯城真規)



口頭発表の様子(飯山和也会員撮影)



ポスター発表の様子(松澤希望会員撮影)

○地域連携活動

地理学科では、大学主体のものや AP 事業、ゼミなどで様々な地域連携活動を行っています。今回は、熊谷市妻沼地区をフィールドとして地域連携を行っている活動を紹介합니다。

「観光まちづくりへの貢献」(熊谷市妻沼地区)

地理学科の片柳ゼミでは、熊谷市妻沼地区をフィールドとして、2014 年度から「観光まちづくりへの貢献」をテーマとして地域連携活動に取り組んできました。2016 年度では、地理学科の「自然有志」グループと共に、道の駅「めぬま」、めぬま商人会の方々と連携し、留学生を対象とした日帰りモニターツアーを実施した。

当日の行程として、学生がガイド役となり、午前中は井田記念館、坂田医院旧診療所、妻沼聖天山本殿などについて、建物のエピソードを交えながら各所を巡った。昼食には地元名物の「いなり寿司」、「雪くま(かき氷)」を食べながら留学生との交流を図った。午後は「自然有志」グループの学生を案内役に、利根川・福川堤防沿いを歩き、自然環境や水害について学びつつ、グライダー滑空場を見学した。

ツアー後の留学生へのアンケート結果から、参加者への事前の情報提供などの改善項目や看板やメニューの多言語対応が進んでいないなどの問題が明らかとなった。また、留学生にとって身近な日本の自然と文化を感じ取れる体験になったのではないと思われる。なお、2017 年度は行き先を秩父市に変えて同様のツアーを行った。

(松澤希望会員)



「妻沼散策ツアー」用にゼミで作成したパンフレット

○今年度卒業予定の学生会員の皆様へ

この3月で卒業される学部4年生・院生の会員の方々には、来年度以降も会員として継続されることをお勧め致します。引き続き立正地理学会会員として、学会活動にご参加下さい。学会ニュースやホームページなどで、学会活動の他、地理学教室の情報などを提供していきます。研究発表大会は、友人との再開の場としても良いでしょう。会員継続をぜひご検討下さい。

継続される方は、卒業証書授与式で配布する継続届を記入の上、『地域研究』『学会ニュース』に同封する払込取扱票にて5月末日までに会費をご納入下さい。他大学や大学院などに進学される方は学生会員(年会費 2,500 円)、それ以外の方は一般会員(年会費 4,000 円)となります。

なお、継続をしない場合でも、卒業証書授与式で配布する継続届に、4月以降に郵便物が受け取れる住所をご記入のうえ、提出してください。2017 年度発行の印刷物を発送することがあります。

○会費納入のお願い

2017 年度分の会費が未納の方には、今回の学会ニュースに「会費納入状況のお知らせ」と「払込取扱票」を同封しておりますので、ご納入下さい。また、過年度分会費が未納の方は、過年度分もあわせてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

一般会員 4,000 円 学生会員 2,500 円
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下の通りです。お振込みの際は、振込人氏名が会員ご本人の氏名となっておりますことをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さい。また、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない場合には、どなたのお振込みか不明となります。ご入金の際は、払込取扱票の払込人住所氏名の欄に必ず住所と氏名をご記入頂きますよう、お願い致します。

※今年度をもって退会を希望される方は、3 月末日までにご連絡下さい。ご連絡がない場合は、自動的に次年度継続として、会費の請求を行わせて頂きます。

(庶務会計委員会)

編集後記

春霞のただよう季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。今年度は学会や卒業研究発表大会などで多くの方にインタビューを受けていただき、心より御礼申し上げます。広報委員として短い間でしたが学会ニュース作成の仕事に参加させていただき、さまざまな点で勉強になりました。広報委員の活動は今後も続きますのでインタビューや原稿依頼など、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

(広報委員 松澤希望)

立正地理学会ニュース No.122

2018年3月20日発行 編集者 立正地理学会広報委員会
発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内
電話 048-539-1672 振替 00130-8-13453